

投与プロトコール 4週間 《開始時基準 PS:0~3(4) 100歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
①	アクテムラ点滴静注用	mg	Day1	1時間	全量100mLに調製 最初10mL/hで15分 残りを130mL/hで 45分点滴
	生理食塩液	8mg/kg			
後フラッシュ	生理食塩液	50mL	Day1	全開	

<重要な基本的注意>

【アクテムラ】

- ◆アナフィラキシー:本剤投与中又は投与当日にinfusion reaction(発熱、悪寒、嘔気、嘔吐、頭痛、発疹等)が発現する可能性がある為、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合にはただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- ◆感染リスク:感染症を合併している患者にアクテムラを投与することにより感染症が重篤化するおそれがあるため注意すること。
- ◆投与開始に際しては、肺炎等の感染症の有無を確認すること。
- ◆易感染性の状態では日和見感染が顕在化するおそれがあることから、投与を避けることが望ましい。
- ◆リンパ球数減少が遷延化した場合(目安として500/ μ L)は投与を開始しないこと。
- ◆結核に関する問診及び胸部レントゲン検査に加え、インターフェロン γ 遊離試験またはツベルクリン反応検査を行い、適宜胸部CT検査などを行うことにより、結核感染の有無を確認すること。
- ◆本剤投与に先立って肝炎ウイルス感染の有無を確認すること。
- ◆本剤投与中は、生ワクチン接種により感染するおそれがあるので、生ワクチン接種を行わないこと。
- ◆脂質検査値異常があらわれることがあるので、投与開始3か月後を目安に、以後は必要に応じて脂質検査を実施し、临床上必要と認められた場合には、高脂血症治療などの処置を考慮すること。
- ◆肝機能検査値の上昇に注意すること。
- ◆胸膜炎が報告されている。胸膜炎所見(胸水貯留、胸部痛、呼吸困難など)が認められた場合には適切な処置を行うこと。
- ◆心障害が認められていることから状態を十分に観察し、必要に応じた処置を行うこと。

<投与時の注意点>

【アクテムラ】

- ◆投与ははじめの15分間はゆっくりした速さ(10mL/h)で点滴を開始する。
状態を十分に観察し、異常がないことを確認してから、130mL/hで、45分点滴する。(全量100mL)
- ◆関節リウマチにおいては1回8mg/kgを4週間の間隔で投与する。
無菌・パイロジェンフリーのインラインフィルター(ポアサイズ1.2ミクロン以下)を用いて投与すること。
- ◆独立したラインより投与するものとし、他の注射剤・輸液等と混合しないこと。

<調製時の注意点>

【アクテムラ】

- ◆バイアルから必要な抜き取り量を抜き取る。100mlの生理食塩液に注入する。
全量100mLとなるように生理食塩液を抜いて本剤を調製する。
希釈時及び希釈後に泡立つような激しく振動させない。本剤は泡立ちやすい。